

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2022年2月28日

事業所名 Berry Language Academy

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		少人数のコマ制の実施	
	2	職員の配置数は適切である	○		現状は適切である	退職者があつたため追加の配置を対応している
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		施設内にスロープの設置等がある	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		積極的に行われている	感染症が終息次第、外部研修も実施する予定
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		積極的に行われている	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		定期的に会議を行い改善点等を指導員間でも共有している	HPだけではなく、文書等での保護者への共有も行っていく
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		送迎の際の保護者対応でヒアリングを行っている	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		社内研修は敵的に行っている	感染症が終息次第、外部研修も実施する予定
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		月に一度の会議をスタッフ全員で行っている	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		資料等が完備されている	より専門的な資料を増やしていく
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		月に一度の会議	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		月に一度の会議	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		月に一度の会議	さらに工夫したイベントを実施する
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		カンファレンスの時間が適切に確保され	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		提出書類作成とは別にスタッフ間での会議の時間がある	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		提出書類作成とは別にスタッフ間での会議の時間がある	すべてのスタッフが作成できるよう研修を行っていく
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		当日にスタッフ間で確認しながら日報を作成している	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		送迎時にモニタリングを実施	より詳細なモニタリングを実施できるよう資料等を用いる	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○		様々な角度からの支援を意識している		

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	すべてのスタッフが参画できるようにしている	さらに研修を徹底していく
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	支援員や保護者を通じて、少しでも早く情報共有できるように取り組んでいる	さらに円滑にコミュニケーションが取れる方法を探していく
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		現状は該当者がいないため、そのようなケースがあった場合に迅速に対応できるようにする
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○	常に情報共有をするよう心掛けている	クラス変更や進学に向けての情報共有も視野にいれておく
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○	常に情報共有をするよう心掛けている	クラス変更や進学に向けての情報共有も視野にいれておく
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		感染症が終息次第実際に現場に出向き交流も検討
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		感染症が終息次第実際に現場に出向き交流も検討
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		感染症が終息次第実際に現場に出向き交流も検討
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	送迎の際に共有する時間を設けている	すべての保護者とさらに情報共有ができるように心がける
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○	母子支援に力を入れている	スタッフ間でもさらに共有を深めて支援を行っていく	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	規約等の説明をゆっくり丁寧に話している	さらにわかりやすい説明ができるように研修を行う
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	母子支援に力を入れている	保護者との時間をさらに確保して深く話が聞けるようにする
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		感染症が終息次第実際に交流も検討
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	LINEグループを作成し、共有している	さらに様々なことが共有できるように徹底していく
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	LINEグループを作成し、共有している	カレンダーなども配信しているのでさらに様々な情報を共有していく
	35	個人情報に十分注意している	○	鍵付きロッカーに保存している	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	言語の中にジェスチャーなども組み入れる	指導員のわかったことはその都度保護者に伝えていく
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		感染症が終息次第行っていく

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		2か月に一回の避難訓練を実施	地震の想定だけでなく、火災や警報などの様々な状況を想定して行っていく
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		2か月に一回の避難訓練を実施	地震の想定だけでなく、火災や警報などの様々な状況を想定して行っていく
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		緊急時書類の作成	左記の書類の中に、持病や服薬の記入欄がある
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		緊急時書類の作成	左記の書類の中に、持病や服薬の記入欄がある
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		共有されている	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		研修の実施と資料	さらに様々な資料を増やしていく